

同一路線に狭さを8連続で設置

短いサイクルでの振り返りと追加対策



16.愛知県稲沢市
(下津地区)

広域図



背景の地図の出典: 国土地理院

整備計画等 策定状況	-
対策の内容	➤ 単路部狭さく(両側)8箇所 他
生活道路の 課題	➤ 外周の幹線道路(県道)からの抜け道 利用が多い

設置の
特徴

同一路線に狭さを8連続で設置

物理的デバイスの概要

設置箇所



背景の地図の出典: 国土地理院

設置内容

	内容	備考
設置箇所数	8箇所	約610m区間に約38~78m間隔
設置時期	2015年6月	
狭さくの形状	【単路部狭さく(両側)】 <ul style="list-style-type: none"> 狭小部の幅員 3m 狭小部の長さ 4m すりつけ部の長さ 3m (数値は代表箇所の例、すりつけ部の長さは場所によって異なる)	<ul style="list-style-type: none"> 技術基準を参考
構造及び付属施設	<ul style="list-style-type: none"> ゴム製ポール 張り出し部のカラー化 路側帯のカラー化 	<ul style="list-style-type: none"> 張り出し部: オレンジ 路側帯: オレンジ
技術的な工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 連続的に30km/h以下に速度を抑制できるよう、既往の調査結果や有識者からの情報提供を参考として約50m間隔で狭さを配置した ◆ ワークショップによる住民からの意見を踏まえ、狭小部の幅員を3mとした ◆ 狭小部の幅員を一定(3m)に保つこととし、張り出し量で調整した ◆ 沿道出入りの妨げになる箇所は狭さを設置しないこととし、位置選定に自由度を持たせたことで、一定の間隔(約38~78m)で狭さを設置でき、連続的な速度抑制につながった ◆ 自転車の通行に配慮し、道路端側のゴム製ポールを一部撤去した ◆ 張り出し部をカラー化することで、視認性を高めるとともに、歩行者が歩道を通行することを意識できるようグリーンではない色を採用 ◆ 両側張り出しとすることで、朝・夕の交通の流れの変化に対応 ◆ 両側張り出しにすることで、車両の通行位置を中央に導きやすく従道路からの流入がしやすくなるよう配慮した 	

設置状況



概観



概観



張り出し部及び路側帯のカラー化



ゴム製ポール



通行状況



ゴム製ポールの一部撤去

合意形成
のポイント

短いサイクルでの振り返りと追加対策

設置に至るまでの経緯と合意形成の概要

設置に至るまでの経緯
(道路管理者の動き)

合意形成の概要

住民要望に対応した検討

- 要望書(2013.11)



本設置(2015.6)

- 単路部狭さく(両側)8箇所



追加対策(2017.4)

- 狭さく(ゴム製ポール)の一部撤去
※自転車の通行に配慮

2014.9 第1回ワークショップ

- 下津地区における問題点・課題の抽出



意見をマップに整理することで、課題を
見える化

2014.11 第2回ワークショップ

- 現地点検による現状の把握、再認識

2015.2 第3回ワークショップ

- 対策案の検討



対策は行政から複数案提示した上で、住
民主導で設定、実施



有識者から助言を得ることで、対策を実
施してみようという意識が形成できた



道路利用者からの苦情に対し、住民で検
討、設置した旨を説明し、理解を得た

効果検証

(交通量調査、ビデオ調査、ETC2.0プロ
ープ情報分析、アンケート調査)

2016.7 第1回ワークショップ【2巡目】

- 交通量調査結果、ビデオ調査結果、アンケート調査結
果、ETC2.0プローブ情報分析結果

2016.10 第2回ワークショップ【2巡目】

- 現地点検の実施


2016.12 第3回ワークショップ【2巡目】

- 対策案の検討

2017.2 第4回ワークショップ【2巡目】

- 対策に向けた住民との合意形成

PDCA の中での合意形成の内容とポイント

段階	説明手法・内容	道路管理者の考える合意形成のポイント 
現況調査 計画策定 〈Plan〉	❖ 第1回ワークショップ(下津地区における問題点・課題の抽出) 実施日 2014年9月6日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 内 容 下津地区における問題点・課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> 意見をマップに整理することで、課題を見える化した住民が考える「必要な対策」について、市とワークショップで議論し、計画を相互に理解 対策は行政から複数案提示した上で、住民主導で設定、実施 有識者から助言を得ることで、対策を実施してみようという意識が形成できた
	❖ 第2回ワークショップ(現地点検の実施) 実施日 2014年11月22日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 内 容 現地点検の実施	
	❖ 第3回ワークショップ(市道00-231号線における対策) 実施日 2015年2月7日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 内 容 対策案の検討	
対策実施 〈Do〉	❖ 本設置 運用開始 2015年6月	<ul style="list-style-type: none"> 道路利用者からの苦情に対し、住民主導で検討、設置した対策であることを説明することで、理解を得た
評価 〈Check〉 【2巡目】	❖ 第1回ワークショップ(対策の効果と課題を考える) 実施日 2016年7月16日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 提示資料 交通量調査結果、ビデオ調査結果、アンケート調査結果、ETC2.0プローブ情報分析結果	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査結果から、具体的な効果と残存課題を共有
対策改善 〈Action〉	❖ 第2回ワークショップ(現地点検を行い対策案を考える) 実施日 2016年10月16日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 内 容 現地点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> 有識者の意見を聞きながら住民主導でさらなる改善への意見交換
計画策定 〈Plan〉	❖ 第3回ワークショップ(実施に向けて対策案をまとめる) 実施日 2016年12月11日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 内 容 対策案の検討	<ul style="list-style-type: none"> 有識者や関係機関の意見により、効果的な改善策を具体化するとともに、「地区の皆さんが模範となるような通行を」といった啓発により、住民の交通安全に対する更なる意識向上が図れた
	❖ 第4回ワークショップ(実施・要望する対策について確認) 実施日 2017年2月19日 参加者 下津地区長、地区まちづくり協議会、学校関係者、愛知県、稲沢市、稲沢警察署、有識者 内 容 対策に向けた住民との合意形成	
対策実施 〈Do〉 【2巡目】	❖ 追加対策 運用開始 2017年4月 内 容 狭さく(ゴム製ポール)の一部撤去	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ意見(自転車が通りづらい)を反映し、ゴム製ポールを撤去
評価 〈Check〉 【2巡目】		

合意形成における道路管理者からみた特筆事項

円滑な検討に結びついた点	<ul style="list-style-type: none">◆ 第三者として有識者に参画してもらったことで、行政からの押しつけでない検討の場となり、ワークショップ参加者の積極的な意見交換ができた。◆ ワークショップをグループ討議形式にすることで、より意見を出してもらいやすい環境づくりができた。◆ 交通量調査結果等、検討に必要な定量的なデータを迅速に提供できた。
考えられる今後の工夫	<ul style="list-style-type: none">◆ 課題となっていた路線に集中的に対策を行ったが、今後、他地区からの要望があれば、ゾーンとしての対策も検討したい。